

現在の風景



お知らせ

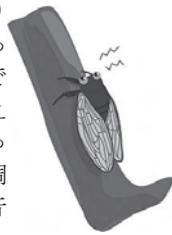
昭和60年代ごろまでの昔の写真を募集しています。ご提供いただける方は、役場秘書広報課広報広聴係☎(295)2112内線332までご連絡ください。

桂木展望台付近からの景色
昭和41年ごろ(松田太郎さん提供)

現在、晴天時には東京スカイツリーが見えることで知られている桂木展望台。かつては萱葺き屋根が見え、趣きある里山の風景が広がっていました。

徒然歳時記

せみ 蝉



蝉時雨のなか、携帯電話を使ったことはありますか? 「蝉時雨」とは、たくさんの蝉がいつせいに鳴く声を時雨の降る音に見たてた言葉です。携帯電話を通じての、蝉の鳴き声は聞こえないといわれています。受話器からの声ははっきり聞こえるよう、聞こえる範囲の周波数を調整しているため、蝉の声の周波数は拾わない音として作られているからです。

関東地方では、6月下旬からニオイゼミが「チーチー」と鳴き始め、7月ごろからアブラゼミが「ジージリジリ」と朝から夕暮れまで鳴き、次に、いかにも関東の真夏のイメージのミンミンゼミが「ミンミンミンミー」と鳴きます。その間の朝と夕方には「カナカナカナ」と鳴くヒグラシに気がつき始め、「オーシーツクツク、オーシーツクツク」と鳴くツクツクボウシは、8月以降に鳴き始めます。「蝉」自体は俳句の夏の季語ですが、ツクツクボウシとヒグラシは秋の季語となっていることから、蝉の声から季節の移ろいを感じることができます。子どものころ、ヒグラシとツクツクボウシを聞き、夏休みがあったという間に終わってしまう寂しさを感じた人も多いのではないのでしょうか。

西日本ではミンミンゼミよりも「シャーシャー」という鳴き声のクマゼミが多く生息しています。原因は不明ですが、クマゼミが北上していることが数年前からか言われています。埼玉県の南部ではクマゼミが確認されているとのことですが、数年前から毛呂山町でもクマゼミが確認されているとか。

まだまだ残暑の厳しいこの時期、秋の涼やかな虫の声も待ち遠しいところですが、蝉の声の変化にも注目して、秋の訪れを感じてみてください。

編集後記

特集記事作成に際して、関係する多くの方にお話を聞かせていただきました。子育てに悩みはつきものとは言われますが…。一人でも多くの子育て世代の人が少しでも悩みから解放されるためには、広報紙で繰り返し啓発することの必要性を実感しました(1)

わがやのアイドル



根本 優くん
(3歳6か月)

毎日とにかく元気な優。末っ子で甘えん坊だけど、何にでもチャレンジする冒険家!!

ザリガニを手でつかめるようになったし、1人でおつかいも行けるようになりました。



吉田 孝太郎くん
(3歳1か月)

優しくてしっかり者の孝太郎。お兄ちゃん

が大好きで、いつもニコニコ元気いっぱいのお兄ちゃん。二人の成長の時を、大切に過ごしていきたいです。兄弟仲良く大きくなってね☆

■秘書広報課では「わがやのアイドル」を募集中です。

申・問 役場秘書広報課☎(295)2112内線332

人口 36,059人(-51人)
【男17,971人(-16人) 女18,088人(-35人)】
世帯 15,705戸(-163戸)
※平成24年8月1日現在(カッコ)内は前月比。
世帯数の減少は法改正に伴うものです。

□広報もろやまは、役場ホール、両公民館、図書館、保健センター、教育センター、総合公園体育館、歴史民俗資料館、福祉会館に置いてあります。